



Dai 1 NAIKA News

三重大学病院 令和 4 年 11 月 30 日
循環器内科、腎臓内科
季刊紙【第 26 号】

発行/三重大学大学院医学系研究科
循環器・腎臓内科学
〒514-8507 津市江戸橋 2-174
TEL 059-231-5015 FAX 059-231-5201
<https://www.sv.hosp.mie-u.ac.jp/naika1/>

腎臓内科のメンバーが増えました！



血液浄化療法部
准教授 片山 鑑

2022 年 4 月 1 日より血液浄化療法部・准教授（病院教授）を拝命しております片山 鑑（かたやま かん）と申します。私は 1997 年に三重大学を卒業して宇治徳洲会病院で 2 年間スーパーローテート研修しました。1999 年に三重に戻り、第一内科に入局しております。その後は市立伊勢総合病院で 2 年間、尾鷲総合病院で 3 年

1 ヶ月と、県内の地域医療に貢献してまいりました。大学に戻ってから腎臓内科でアルポート症候群モデルマウスを用いて基礎研究を行っていました。大学院卒業後、縁あってスウェーデンのカロリンスカ研究所に 2007 年から 2017 年までの約 10 年間研究留学し、スウェーデン語の語学試験に合格して医師免許を取得しました。2017 年帰国後より腎臓内科医として三重大学で勤務しております。主な業務としましては、週 2 回の外来（初診・再診）とカンファレンス統括、基礎研究・臨床研究での大学院生指導です。帰国して 5 年余りが過ぎ、無事基礎研究・臨床研究それぞれから 1 名ずつ学位を取得していただきました。まだまだ大学院生をたくさん指導しておりますので、引き続き精進してまいりたいと思います。

先生方との接点は腎機能障害で患者様をご紹介いただくことだと考えております。特に、慢性腎臓病(CKD)は自覚症状がありませんので、健康診断で検尿異常や eGFR 低下を指摘された患者様を早期発見して早期治療につなげるのは非常に大事だと考えております。CKD ヒートマップの図はかなり有名になりましたが、どの段階から腎臓専門医に紹介すべきかが分かりにくいというお声を拝聴します。尿蛋白陽性以外に尿潜血陽性のみでも一度はご紹介いただいてもいいのではないかと思います(図)。三重大学腎臓内科のメンバーは少しずつ増えて現状で 10 名となっておりますので、引き続き患者様のご紹介をよろしくお願い申し上げます。

かかりつけ医から腎臓専門医への紹介基準（私見）

原疾患	尿蛋白区分	A1	A2	A3
糖尿病	尿アルブミン定量 (mg/日) 尿アルブミン/Cr比 (mg/gCr)	正常 30未満	微量アルブミン尿 30~299	顕性アルブミン尿 300以上
高血圧、腎炎、多発性囊胞腎、不明、その他	尿蛋白定量 (g/日) 尿蛋白/Cr比 (g/gCr)	正常 0.15未満	軽度蛋白尿 0.15~0.49	高度蛋白尿 0.50以上
糸球体濾過率 (mL/min/1.73m ²)	G1 正常または高値	90<	紹介	紹介
	G2 正常または軽度低下	60~89	紹介	紹介
	G3a 軽度~中等度低下	45~59	紹介	紹介
	G3b 中等度~高度低下	30~44	紹介	紹介
	G4 高度低下	15~29	紹介	紹介
	G5 腎不全	<15	紹介	紹介

新病棟医長ご挨拶



循環器内科 助教
荻原 義人

2022 年 10 月より循環器・腎臓内科病棟医長を拝命しました荻原義人と申します。愛知県一宮市出身で、2002 年に三重大学卒業後、第一内科医局に直入局。その後、関連病院を経て、2010 年より三重大学病院で勤務しております。大学病院では、静脈血栓塞栓症、肺高血圧症の他、先天性心疾患領域にも中心に携

わっており、科内では循環器領域の隙間的な活動をしてまいりました。今回、科内全体を把握するといったこれまでと真逆な任務につくことになり、ストレスフルではありますがやりがいを感じ、一層充実した毎日を送っております。

三重大学病院は、高度かつ先進的な医療を提供することは当然のこととして、地域の拠点病院として、県内の先生方と密な連携をして救急医療・急性期医療に取り組み、住人の生命と健康を守る必要があります。そのため、これまでも当科は入院・外来患者さんをご紹介いただきやすい病院を目指して活動してきました。しかし、まだまだ不十分だといったお声もいただいております。医局長の藤本、栗田らとともに、より一層、ご紹介をスムーズにお受けすることができるように、医療連携活動、病院紹介受付システムの改訂に取り組んでまいります。また循環器・腎臓内科救急ホットラインを本ページに掲載しておりますので、お困りの症例がありましたら、こちらにもお気軽にご相談ください。

これまでと同様のご指導、ご鞭撻をいただきますよう何卒、宜しくお願い申し上げます。

新任医師紹介



循環器内科 医員 桐井 陽祐

平成 29 年卒の桐井陽祐と申します。令和 4 年 10 月より三重大学医学部附属病院に勤務させて頂いております。三重大学を卒業後、京都第二赤十字病院というところで初期研修および後期研修を行い、5 年半ぶりに三重県に戻って参りました。市中病院では経験できなかった疾患、治療法を中心に勉強させて頂きたいと思っております。至らぬ点多々ございますが、今後とも御指導御鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

腎臓内科 助教 山脇 正裕



平成 29 年卒業の山脇正裕と申します。三重大学卒業後、伊勢赤十字病院で 4 年間勤務し、2021 年に三重大学医学部附属病院で勤務する機会を得て第一内科に入局し、半年間の尾鷲総合病院での地域医療従事の後、2022 年 10 月に三重大学医学部附属病院に再就職となりました。未熟者ではありますが、少しでも皆様方のお力になれるよう努力して参ります。何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



循環器内科 医員 宇野 拳太

平成 30 年卒、津市に生まれ津市に育ち、福井大学を卒業後に松阪中央総合病院で 4 年半の臨床研修を行って参りました。この 10 月から三重大学病院に転勤となり循環器疾患全般の診療を行っております。精進してまいりますのでご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

循環器内科 医員 牧野 翠



平素より大変お世話になっております。平成 30 年卒の牧野翠と申します。鈴鹿中央総合病院で初期研修を終え、同院にて 2 年半の後期研修を経て現在に至ります。大学病院では市中では経験できない症例も多く、新鮮で刺激的な毎日を過ごしております。至らぬ点多々あるかと思いますが、精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



循環器内科 医員 山田 啓太

平成 30 年卒の山田啓太と申します。令和 4 年 10 月より三重大学医学部附属病院に勤務させていただいております。初期研修から令和 4 年 9 月までの間、四日市の三重県立総合医療センターで勤務しておりました。まだまだ未熟で至らぬ点多々あるとは思いますが、少しでもよりよい医療を提供できるよう研鑽に励んでいく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。

ワンポイントレクチャー ネフローゼ症候群について



腎臓内科 助教
平林 陽介

ネフローゼ症候群は高度の蛋白尿と低アルブミン血症を認め、全身性浮腫を来す疾患群です。微小変化群、膜性腎症、IgA 腎症等の原発性糸球体疾患の他、糖尿病性腎臓病、腎アミロイドーシス、ループス腎炎等の二次性糸球体疾患とその原因は多岐に渡ります。2021 年の日本腎生検レジストリーでは 4234 例中 1021 例がネフローゼ症候群を呈しており、比較的頻度が高い疾患群です。最近では難治性ネフローゼ症候群に対するリツキシマブ投与や IgA 腎症に対する扁桃摘出術の有効性が報告されており、治療の選択肢は増えつつあります。コロナワクチン接種後や新型コロナウイルス罹患後にネフローゼ症候群を発症する報告が散見されており、今後も日常臨床で遭遇する可能性が高い疾患群と考えられます。

ネフローゼ症候群に限らず、持続性蛋白尿を呈する患者様やお困りの患者様がいらっしゃいましたらご紹介いただければ幸いです。今後ともよろしくお願い申し上げます。

循環器内科 腎臓内科 外来担当医表					
	月	火	水	木	金
循環器	初診	土肥 薫 伊藤正明 栗田泰郎	藤本直紀 香川芳彦 水谷花菜	岡本隆二 藤田 聡	杉浦英美喜
	再診	伊藤正明 栗田泰郎 森脇啓至 岡本隆二 大森 拓 石山将希 廣田有美 藤本直紀 ディバイス外来	荻原義人 土肥 薫	岡本隆二	杉浦英美喜 香川芳彦 佐藤 圭
腎臓	初診	休診	村田智博	村田智博	片山 鑑
	再診	片山 鑑 山脇正裕	平林陽介	山脇正裕	村田智博 高橋大輔

第一内科ホームページをリニューアルしました！

<https://www.sv.hosp.mie-u.ac.jp/naika1/>

循環器内科、腎臓内科救急ホットライン

三重大学病院循環器内科、腎臓内科連絡先（直通）

内科外来：059-231-5146

病棟：059-231-5101

FAX：059-231-5518

研究棟：059-231-5015

患者様の紹介、相談にご利用ください。本機関誌に関するご意見、ご質問は下記メールアドレス、または当科 HP まで。naika1@med.mie-u.ac.jp